



スモールステップ



10月号

つちやの
ちよつと聞いても
いいですか？

本校の情報教育について ～GIGA スクール構想～

久しぶりのインタビュー企画です。第2回のインタビューは、情報教育の担当主幹である渡邊慶先生です。学校評価の保護者アンケートで比較的問合せの多かった情報教育について、本校の現状とこれからの展望を伺います。

土屋：「まずは、本校のパソコン等ICTを使用した情報教育の現状を教えてください。」

渡邊：「パソコンにつないだ大型テレビを使った授業が増えましたね。それに伴いテレビの台数も増えました。」

土屋：「テレビを使ってどんな授業をしているのですか？」

渡邊：「教師が作成したプレゼンテーションソフトで学習内容を提示して児童・生徒の理解を促すことや、画面にタッチして絵を動かしたり、タッチペンで描画したり等の体験型の活動をしています。」

土屋：「パワーポイント等のICT教材を作成するのは、知識や技能が要りそうですね。」

渡邊：「どの先生もICT教材を活用できるように、パソコン作成の得意な先生達が、データを所定の場所に蓄積し、みんなで共有化できるようなシステムを構築しています。」

土屋：「昨年度よりGIGAスクール構想が始まり、児童・生徒一人につき1台の個人端末(ipad)が整備されています。個人端末の使用状況と、今後、家庭で使用していくことに当たっての展望や課題はありますか？」

渡邊：「まずは、児童・生徒が誤操作したり、保護者が知らないうちに問題となるサイトにアクセスしたりしないよう、学校で安全な操作の仕方を指導し、扱い方に慣れることが重要だと考えます。国語・算数(数学)等については個人端末を使用して個別学習をしている学習集団もあります。中学部では操作が自立している生徒もいるのですが、小学部低学年等の段階の児童はまだ難しい部分があります。発達段階に応じて、一人でも簡単に操作できる有償アプリを検討している所です。そして、家庭の持ち帰りについては、何が課題となるのかを検証するために、今年度は小学部・中学部からモデルケースを設けて実験的に取り組んでいく予定です。」

学校や家庭の中で児童・生徒が安全に個人端末を利用していくためには、アクセシビリティ(身近であること・利用しやすさ・馴染みやすさ)がポイントとなってきます。一人一人のアクセシビリティを高めるために、私達教師の指導・支援、教材開発・提示の工夫、そして御家庭の見守りといった協働体制で継続して取り組んでいくことが必要になってくるかと感じます。

文責：土屋 美奈

